

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 木屋瀬 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

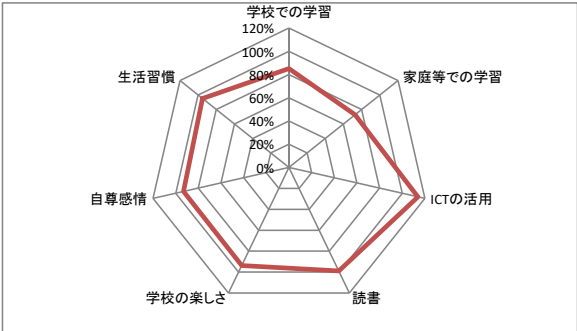
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく使うこと、文章全体の構成や書き表し方などに着目して文や文章を整えるなどの基礎的な能力は定着してきた。しかし、読解力をはじめとした、文章から読みとる、心情を読み取る力に課題があった。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	漢字を正しく使うこと、文章全体の構成や書き表し方などに着目して文や文章を整える問題。	下回っている
	努力が必要な問題	読解力を求められる問題。	
算数	全体的な傾向や特徴など	式と計算など基礎・基本の定着がみられた。しかし図形・データ分析などの数量関係の領域に苦手を感じる児童が多い。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	式と計算領域の乗数を活用した問題。	下回っている
	努力が必要な問題	図形領域、データの分析などの数量関係などの領域に課題を感じている。	
理科	全体的な傾向や特徴など	生命・地球を柱とした領域については、比較的定着していた。しかし、エネルギー・粒子を柱とした領域について苦手を感じている児童が多かった。特に水溶液の性質については改善の必要がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	生命・地球の内容における天気分野についてはよくできていた。	下回っている
	努力が必要な問題	自然の事象・現象から得た情報を自分事としてとらえて、応用して活用する問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
タブレットを積極的に活用するなど、個別最適化の学びを積極的に行うことができている。課題を解決するための手段として、効果的にタブレットを使い学習の役立てようとする児童が増えてきた。 しかし、課題解決学習において、自ら考え、主体的に課題を解決すること、話し合い活動等において、活動を通して考えを深めたり、広めたりすることに課題がある。今後の学習や活動において改善する必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

UDLを活用して、全ての子どもにとって、分かりやすい授業。分かった・できた・もっとを実感する授業を推進していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

自学を中心とし、家庭と連携をしながら、家庭学習の時間を増やし習慣化していく。